

経済・社会・教育

A-1. バゼドウ《フィラレティー》初版

BASEDOW, Johann Bernhard. *Philalethie. Neue Aussichten in die Wahrheiten und Religion der Vernunft bis in die Gränzen der glaubwürdigen Offenbarung dem denkenden Publico.* Altona, zu haben bey David Iversen, 1764.

¥176,000

*Small 8vo, two volumes, pp. (26), 748, (10) Register, (2) blank; (6), 448; with engraved frontispiece ("Auch dies sind Stralen des Sonne," by Fritsch) to the initial volume, woodcut vignette to the title-page of each volume, some woodcut headpieces and ornaments in text; occasional light foxing and spotting, but a very good copy in contemporary sheep on navy boards, maroon leather title label to the spine of each volume, spines gilt in compartments, covers lightly rubbed, corners and edges worn, top of spine of the second volume repaired.*

バゼドウ (1724-1790) はハンブルクに生まれ、ライプツィヒ大学で神学・哲学を学んだのち数年にわたりフォン・クヴァーレン家の家庭教師をつとめています。その間の教育経験をまとめたものを修士論文としてキール大学へ提出しています。デンマークで教授に就任して以降の十年余は哲学研究に専念していたものの、ラ・シャロテの教育改革論に触発され、再び教育問題の検討に踏み込むこととなりました。本書はその最初の成果であり、学校の改革や図書室のプランなども含むもの。

A-2. バゼドウ《組織的教育》初版

BASEDOW, Johann Bernhard. *Methodischer Unterricht des Jugend in der Religion und Sittenlehre der Vernunft nach dem in der Philalethie angegebenen Plane.* Altona, bey David Iversen, 1764.

¥165,000

*Small 8vo, two volumes in one; pp. lxii, 272; xxxii, 224, 144 Grundriss der Religion; engraved vignette to the title-page of each volume, some woodcut headpieces and ornaments in text; slight foxing and browning, but a very good copy in contemporary half sheep on marbled boards, edges sprinkled (but faded), leather title label on spine lettered in gilt, lower end of spine restored, corners and top of spine worn, front joint partly cracked but sound.*

同年に刊行された *Philalethie* に基づく教育理論の敷衍。二巻合綴、同時代の半革装、背の下部に補修あり。

A-3. ベンサム《統治論断片》初版

BENTHAM, Jeremy. *A Fragment on government; being an examination of what is delivered on the subject of government in general, in the introduction to Sir William Blackstone's Commentaries: with a preface, in which is given a critique on the work at large.* London, printed for T. Payne; P. Elmsly; and E. Brooke, 1776.

¥1,540,000

*8vo, pp. (2), lvii, (1) blank, (2) fly-title, 208; the title-leaf and the last leaf slightly dustsoiled and foxed, otherwise a very good sound copy, bound without half-title in contemporary calf, spine gilt in compartments, edges tooled in gilt, green morocco title-label to the spine, lightly rubbed and worn, spine with light scratches, lower joint partly cracked. Kress 7191; Goldsmiths 11503; Chuo F1.1.*

ジェレミー・ベンサムの最初の著書。ウィリアム・ブラックストンの名著 *Commentaries on the Laws of England* 第一巻「序論」の批判的検討であり、自然法概念に対する仮借ない論駁が展開されています。その痛烈さゆえ、当初匿名の著者が誰なのかという詮索が喧しかったと伝えられるもの。

十二歳のベンサムがオクスフォード大学クイーンズ・コレッジに入学したのは1760年、令名高かったブラ

ックストンの講義を聴講したのは、学部生の課程を修了した 1763 年以降のことでした。彼が教授職を退いたのは 1766 年、同じ年に学位を得たベンサムは翌年オクスフォードを離れています。晩年の回想によれば、講義に出席したものの「聴いた内容を省察することで頭がいっぱいになり、ノートを取るどころではなかった。私にはすぐに彼の自然権に関する見解が誤謬であることがわかった」とはいえ数年後、ベンサムが本格的な法研究に着手した際に起点となったのはブラックストンでした。批判対象といえども、ベンサムが *Commentaries* から摂取したものは少なくありません。

1774 年友人ジョン・リンドから *Commentaries* 批判の草稿を託されたベンサムは、独自の考察に着手し、*A Comment on the Commentaries* と題する逐条的な批判を執筆しましたが、完成には至りませんでした。『統治論断片』はこの *A Comment* 執筆の副産物として生まれたもので、1775 年末に成稿したと考えられます。自然法とコモン・ローを徹底して批判し、実定法による法改革を提唱したベンサムの画期的な法思想が本書にはじめて示されたばかりでなく、十九世紀の政治・社会思想に大きな影響を及ぼした功利主義がここに唱道された点でも、『統治論断片』は記念碑的な処女作といえるでしょう。「最大多数の最大幸福が正義と悪との基準である」という功利主義の原理はまさに本書の巻頭に呈示されています。

パウリングによれば初版は五百部の刊行。これと同年ダブリンで海賊版が上梓されています。約半世紀後の 1823 年に刊行された第二版は、注記に若干の付加がある以外は同一の本文。この第二版のためにベンサムが執筆した新たな序文は、(彼の少なからぬ他の著書と同様に) 印刷はされましたが公刊には至りませんでした。

同時代の牛革装。

#### A-4. デュパン《第二次英国渡航記》手稿本

DUPIN, Charles. *Second voyage dans les ports de la Grande Bretagne. Etablissements & travaux publics.* Dunkerque, juillet, 1818.

¥440,000

*Manuscript on paper (335 x 215 mm), folio, pp. (2), iv introduction, xl table, (2) blank, 414; 30 lines, dark brown ink in neat single hand, rules in pencil, with numerous sidenotes (shaved in a few leaves but legible); bound in contemporary tree calf, covers elaborately panelled gilt, flat spine gilt in compartments, contrasting red and green morocco title labels on spine, top of spine with repair, joints partly worn.*

ルイ十八世によって男爵に叙せられたシャルル・デュパンは 1784 年ニエーヴル県ヴァルジの生まれ。パリの理工科学校ではガスパール・モンジュとカルノーに師事し、1803 年の卒業後さらに船舶工学を学んでいます。海軍技官としてアントワープやジェノヴァに赴任したのちイオニアのゴルフでは海軍工廠の再建に携わり、さらにこの地に新設された学院で物理学・力学の教鞭を執りました。1811 年帰国した後は海軍港湾施設の研究に従事し、1815 年六月にはその最初の成果である *Tableau de l'Architecture navale aux XVIIIe et XIXe siècles* 第一部をフランス学士院に提出しました。

デュパンの英国渡航計画は第一義的にこの港湾研究をさらに進めるべきものでしたが、彼の計画書には英国の産業革命が及ぼした諸工業の機械学的進展についても観察を行う旨が記されています。ドランプルと数学者ジョゼフ・フーリエの海軍省への働きかけによって実現した彼の視察旅行は、1816 年の八月から約半年間に及びました。英国海軍や東インド会社の港湾施設をはじめ、病院や刑務所、運河、工場はもとより民間の工場にまで足を運び、複数回訪れて詳細な知見を得た場所も少なくありません。つい最近まで敵国だったフランスからの見学者に対し、英国の各施設は門戸を閉じることなく、設備の構造や将来の計画を含むすべての質問に対して腹藏なく回答を与えています。

デュパンはこの旅行の豊富な成果に満足することなく、帰国後直ちに第二次の渡航を計画しました。1817 年五月末に出発し、翌年二月に帰国したこの旅行では、まずロンドンの王立学会を訪れた後、ジョン・レニーが設計したテムズ川をまたぐ二つの橋、サザーク橋とストランド橋（ウォータルー橋）とを見学。その後英国各地の港湾都市を視察すべく、キングストン・アポン・ハルからイングランド東岸を北上し、サンダーランド、ニューカスル、ベリックをへてスコットランドに入りエディンバラへ。さらにアバディーンまで北上すると、インヴァネスからカレドニアン運河を経由してブリテン島西岸に出ます。ダンバートン、グラスゴー、カーライル、リヴァプールを視察したのちホリーヘッドからダブリンに渡りました。ダブリンでは足を骨折したため一ヶ月以上を棒にふったものの、帰国後ダンケルクに戻って四ヶ月の滞在許可を求めたのは、視察の成果を早々にまとめるためでした。

二度の渡航報告が最初に活字となったのは、*Mémoires sur la marine et les ponts et chaussées de France et d'Angleterre, contenant deux relations de voyages faits par l'auteur dans les ports d'Angleterre, d'Ecosse et d'Irlande dans les années 1816, 1817 et 1818* (Paris: Bachelier, 1818) です。ガスパール・ド・プロニー宛の献辞は 1818 年

六月の日付が付されていますが、そこに示された記録は第一次・第二次ともそれぞれ五十頁程度に過ぎず、旅程に沿ってごく手短かな報告を呈示したに過ぎません。またこれと前後して *Procès-Verbaux des Séances de l'Académie des Sciences* に三種の報告が掲載されたものの、いずれもわずか数頁。

デュパンはその後も 1819 年、1821 年、1822 年、1824 年の四度にわたって英国を視察し、六次に及ぶ渡航から得られた知見は三つの大著にまとめられました。*Force militaire de la Grande-Bretagne* (1820) と *Force Navale de la Grande-Bretagne* (1821)、それにこれらをまとめて 1824 年 *Voyage dans la Grande-Bretagne* として再刊した際に新たに加えられた *Force commerciale* とがそれにあたります。また 1823 年に公刊された *Système de l'administration britannique en 1822* も一連の著書に加えてよいでしょう。デュパンが本来の視察目的である港湾施設や公共建築だけでなく、商業や社会制度、労働問題、学芸など多面にわたって英国の現状をつぶさに観察し、その長所をフランスに齎そうとしたことが明らかになります。

とはいえこれらの大著の中から個々の渡航記録が再現できるわけではなく、デュパンの視察を時間軸に沿って詳細に記録する上掲手稿本の存在は貴重なものといえるでしょう。第二次渡航の最後の地であるダブリンについては記述がないものの、ロンドンからホリーヘッドまでの旅程をたどりながら、各地での調査記録を収載します。本文四百頁余を含む全文が写字生の手になる浄書であり、この手稿本は恐らくデュパンが関係者に提出するため作成されたものと推測されましよう。

同様の写本は現存稀れ。第一次の渡航報告書についてはパリ土木工学校に所蔵されている (MS 3000) ほか、ハーヴァード大学ベイカー図書館 (K98.65) にも確認されますが、第二次渡航については上記の刊本と同様、ごく簡略なものしか知られていません。

#### A-5. 《1867年パリ万博フランス労働者代表団報告書》初版

Exposition universelle de 1867, a Paris. Rapports des délégations ouvrières contenant l'origine et l'histoire des diverses professions, l'appréciation des objets exposés, la comparaison des arts et des industries en France et a l'étranger, l'exposé des vœux et besoins de la classe laborieuse, et l'ensemble des considerations sociale intéressant les ouvriers. Ouvrage comprenant 100 rapports, rédigés par 315 délégués ouvriers nommés au suffrage universel. Paris, Librairie A. Morel, [1869].

¥836,000

*Folio, three volumes, numerous woodcut illustrations in text; edges lightly foxed, sporadic light spotting, but generally a very good clean copy, bound in contemporary quarter brown morocco on marbled boards, titles gilt to the spines, corners and spine ends lightly worn, a few minor scratches to the covers.*

社会学者としても名高いフレデリック・ル・プレーはナポレオン三世の覚えめでたく、数々の要職を歴任しました。1867年のパリ万博委員長もその一つです。ロンドン万博に派遣されたのと同様の労働者代表団を、パリでこの万博のために再結成するのも、このル・プレーの発案によるものでした。そして博覧会へ招待する代表を各種現業の同業者組合に選出せしめるとともに、各代表には報告の提出を求めています。

第二帝政期には政治と大衆との関係に大きな変化があらわれています。1867年の万博にも労働者階級にまで開かれた博覧会としようとする意図が働いており、労働の歴史を展示したり、日常生活用品に光をあてたりすることによって労働の様々な側面を明らかにすることがテーマとされたばかりでなく、労働者に直接問いかけ、あるいは説得する場として万博が構想されています。

1866年十一月にル・プレーは、銀行や産業資本家や技師、ジャーナリストなども含む六十名の準備委員会を設置し、労働者代表団の選出をすすめました。パリとその周辺地域では業種別の集会在開催され、ここで選ばれた代表は博覧会場に招待され、展示された工具や機器を見学し、評価をする任務を与えられました。さらに各業種に関する報告書をまとめるため、インターナショナルにも関与しパリ・コミューンでも活躍することになるユジェヌ・タルタレが書記長となった三百余名の中央委員会が構成され、業種別集會での審議を記録しています。

この代表団報告書は百の報告を収録しています。対象となる現業は、石花石膏加工、小銃、秤、装身具、パン、馬具、ボタン、ビール、ブラシ、帽子、大工、チョコレート、綱、靴、屋根葺き、釘、蹄鉄、皮革、木の金箔加工、黒檀指物、扇子、ピアノ、アコーディオン、金管・木管楽器、ブリキ細工、造花、銅精錬、毛皮、暖炉、時計、精密機器、宝石加工、眼鏡、漆塗物等々の製造業に加え、植字工、銅版印刷、石版印刷、布地印刷、壁紙印刷、写真、園芸、育樹、美容師、音楽演奏団体、家具デザインなどの業種まで、実に多種多様です。

報告書は各業種の歴史と製品・生産器具についての考察、労働の質、機械化の功罪、労賃の問題と教育などを論じ、さらに労賃における性差別の撤廃と最低労賃を自主的に決定する権利や、労働組合に所属する自由を求めています。挿図は一千点以上におよび、当時の産業総覧ともいべき内容となっています。パリ・

コミュニオン前夜におけるフランスの産業と労働者階級の現状を記述した貴重な記録といえるでしょう。

#### A-6. フレーベル《人間の教育》初版

FRÖBEL, Friedrich. Die Menschenerziehung, die Erziehungs=, Unterrichts= und Lehrkunst, angestrebt in der allgemeinen deutschen Erziehungsanstalt zu Keilhau; dargestellt von Stifter, Begründer und Vorsteher derselben. Erster Band. Bis zum begonnenen Knabenalter. Keilhau, Verlag der allgemeinen deutschen Erziehungsanstalt; Leipzig, in Commission bey A. Wienbrack, 1826.

¥330,000

8vo, pp. (4), 497, (1) colophon, (1) advertisements, (1) blank, with a leaf of Wienbrack's advertisements at end; all published; mild foxing and browning throughout, but a very good copy in original printed wrappers, with printed paper labels explaining the emblematic illustrations on the wrappers pasted to the inside covers, entirely uncut and partly unopened, some leaves crudely opened but not affecting text, covers lightly dustsoiled and with a few minor closed tears (repaired), corners of lower cover torn, spine creased and split but holding.

今日にいたる幼児教育の基礎を築いたフレーベルの主著。教師として着任したフランクフルトのギムナジウムで、校長アントン・グルーナーを通じてペスタロッチの思想を知ったフレーベルは、直ちにイヴェルドンを訪ね、その後も二年間にわたりペスタロッチの学園に留まって親しくその指導を受けています。

1816年フレーベルが自らグリースハイムに開いた学園は翌年カイルハウに移り、ここで実践とともに深められた独自の思索は『人間の教育』として結実しました。幼年教育を論じた第一巻のみが刊行され、少年教育に関する続巻は上梓に至らなかったものの、彼の教育思想の核心がここに提示されています。フレーベルは幼児期の遊びが人間の発達に果たす重要性を説き、「遊びにおいて人間全体が発達し、人間全体の最も清純な素質、内面的な心があらわれてくる」と述べるとともに、少年期の「教授」に対し幼児期の「教育」を唱えました。「われわれの子どもらに生きよう」という有名なフレーベルの標語も本書に見出されます。

原装本。寓意的な挿図が表紙の中央にあしらわれ、その意味の解説を印刷した紙片が表紙裏に貼付されています。

#### A-7. ゴッセン《人間交通の諸原理》第2版

GOSSEN, Hermann Heinrich. Entwicklung der Gesetze des menschlichen Verkehrs, und der daraus fließenden Regeln für menschliches Handeln. Neue Ausgabe. Berlin, Verlag von R.L. Prager, 1889.

¥990,000

8vo, pp. (8), [v]-viii, 277, (1) errata, (2) publisher's advertisements; edges lightly browned, some ink underlining and pencil scorings, occasional spotting, but otherwise a very good copy in original publisher's printed wrappers, entirely uncut. Einaudi 2657.

ドイツにおける限界効用理論の先駆者、ゴッセンのこのした唯一の著書。1854年著者が自費でブルンシュヴィックの出版社から刊行された際にはほとんど売れず、ゴッセンは死の直前、残部を出版社から回収しています。偶然この著作を入手したジェヴォンズが、『経済学の理論』第二版（1879年）でゴッセンの功績を認めたことから本書が斯界に知られるようになると、著者の甥が保存していた残部をベルリンの出版社プラーゲルが買取り、前付けを差し替えて1889年に「新版」として販売したのがこの第二発行本。「初版」は極めて稀観ですが、「新版」も稀少。

上掲は原装本。巻頭では第一発行本から前付け冒頭の二葉を削り、代わりにプラーゲルの広告（一葉）、ーフ・タイトルとタイトル（二葉）、プラーゲルの序文（一葉）の計四葉が加えられています。また巻末最終葉として第一発行の版元となったフリードリヒ・フィーヴェークの広告葉がそのまま残されています。

#### A-8. オクタヴィア・ヒル《協力者への書簡》初版

HILL, Octavia. Further account of the Walmer Street industrial experiment. London, printed by George Pulan, 1872.

[Bound with:]

Letter accompanying the account of donations received for work amongst the poor during 1872. London James Martin, 1873.

[Bound with:]

Letter to my fellow-workers, to which is added account of donations received for work among the poor during 1875 [1877-1881; 1883; 1884 & 1885; 1887-1903]. London, Waterlow and Sons, n.d.

[Bound with:]

Preservation of commons. Speech of Miss Octavia Hill at a meeting for securing West Wickham Common. Westminster, printed for Kent and Surrey Committee of the Commons Preservation Society, [1892].

¥264,000

12mo, together 28 volumes bound in one, title-leaf to the 1891 Letter with clean tear affecting letters but mended without loss, sporadic mild foxing, but a very good sound copy, in near contemporary cloth on boards, title lettered gilt to the spine (covers lightly soiled, spine darkened, hinges partly split but sound); library label and stamps to front endleaf.

オクタヴィア・ヒルはスラムの住居改善に大きな貢献を果たすとともに、多くの女性ワーカーの養成に成功したことで知られますが、1872年刊行の *Further Account of the Walmer Street Industrial Experiment* 以来、「協力者」であるワーカーに対する年間事業報告をほぼ毎年まとめています。これらは公刊されず、関係者のみに配布されたもので、1877年の報告以降は“*For private circulation only*”とタイトル頁に明記されています。それぞれ一年間の活動を要約した「書簡」と「会計報告」との二部からなります。

これらの『書簡』は、1884年・1885年の二年分が一冊にまとめられた他は毎年一冊、1911年まで印刷されました。計四十冊の報告のうち、上掲本は1873年・1874年・1876年・1882年・1886年の五冊ならびに1904年以降の八冊を欠いていますが、完全揃いは大英図書館に確認されるのみで、他機関の所蔵はなほだ稀れ。

なお1871年度の報告が *Further Account* と題されているのは、牧師フリーマントルの *Pastoral Address and Report of the Charities for the Year 1870* に“*Miss Hill's Report of the Walmer Street District*”が収録されていることにちなみます。*Further Account* の脚註によればヒルの報告は *Employment or Alms-Giving* と題する独立したパンフレットとしても印刷されていますが、大英図書館をはじめ主要な図書館に所在が確認されません。

巻末のパンフレットは1892年の講演でオープンスペースとしてウェスト・ウィカム・コモンを保存するよう訴えたもの。

#### A-9. 矯正院・養育院連合《売春婦矯正活動の覚書ならびに要注意人物一覧》

Reformatory and Refuge Union. Notes on work amongst the fallen and cautionary list. Nos. 1-158. London, December 1887-October 1920.

[Together with:]

London Diocesan Council. Report on committee on rescue work. 1888. London, printed by Spottiswoode & Co., 1888.

[With:]

Report of the annual conference of managers of homes for girls and young women, and workers amongst the fallen, held in the council room of the Reformatory and Refuge Union. 1900[-1901]. London, Female Aid Society, n.d.

¥220,000

8vo, 158 issues plus 3 reports bound in five volumes; printed general title-leaves to Vols. 2 & 3, printed index of names (for the cautionary lists) to each volume (except Vol. 5 in typed copy); a very good clean copy, initial three volumes in half calf on cloth boards, remains in contemporary cloth on boards (Vol. 2 worn and joints cracked; dampmarks to the covers and spine of Vol. 5).

各地の矯正院に収容された売春婦が改善せぬまま再び別の矯正院に収容され、他の収容者へ悪影響を及ぼす事例が頻発したため、1887年五月、矯正院連合は情報交換のための内部文書を発行することを決定しました。同年十二月より数ヶ月間隔で出されることになる『要注意人物一覧』には、そうした収容者たちの氏名・年齢・風貌・出身・経歴・素行が記されています。連合はもとより、この文書の取扱いに十分注意を払うことを求めており、部外者の手に決して渡らないよう、またかかる文書の存在自体当事者たちに知られることがないように強く要請しています。

『一覧』はまた、矯正活動に関する最新の情報をあわせて掲載しており、年次会議の報告や、アメリカやインドでの活動報告、施設の新設・撤去、あるいは庶子をめぐむ問題等々を記しています。

上掲本は初号から1920年の第158号までを五巻に収録しています。英国公文書館に部分的な所蔵はあるようですが、英米の主要図書館での所在は一切確認されないため、上掲本を以って完本と見做しうるかは明らか

かではありません。

なお、第一巻ならびに第二巻の巻末にはロンドン教区参事会の救護活動報告（1888年）と連合の年次報告二巻（1900年・1901年）をあわせて収録しています。

#### A-10. ルソー《学問芸術論》初版・ほか

ROUSSEAU, Jean-Jacques. Discours qui a remporté le prix a l'Académie de Dijon. En l'année 1750. Sur cette question propose par la même Académie: Si le rétablissement des sciences & des arts a contribue à épurer les mœurs. Par un citoyen de Genève. A Genève, Barillot & fils, [1750].

[Bound with:]

LESZCZYNSKI, Stanisław, and Joseph de Menoux. Réponse au Discours qui a remporté le prix de l'Académie de Dijon. [Paris, Noël-Jacques Pissot], 1751.

[Bound with:]

ROUSSEAU, Jean-Jacques. Observations de Jean-Jacques Rousseau, de Geneve, sur la Réponse qui a été faite à son Discours. [Paris, Noël-Jacques Pissot], 1751.

[Bound with:]

BORDE, Charles. Discours sur les avantages des sciences et des arts, prononcé dans l'assemblée publique de l'Académie des sciences & belles-lettres de Lyon, le 22 juin 1751. Avec la Réponse de Jean J. Rousseau. A Genève, chez Barillot & fils, 1752.

¥550,000

8vo, four works in one volume; pp. (6), 66; 34; 62, (2) blank; (2), 130; the initial work with engraved frontispiece (by Ch. Baquoy) and woodcut vignette on title-page; contemporary mottled calf, gilt, joints cracked, corners and spine ends worn; occasional faint waterstaining, mild browning throughout. Quérard VIII. 192-3, 209; Dufour 13, 23, 24; Snelier 240, 249, 256; Cioranescu 54709, 56763, 54718 & 56767; Tchemerzine-Scheler V. 525; Cohen-de Ricci 902-3; cf. Gagnebin & Raymond edd., Oeuvres complètes III. pp. 1854-6 (No. 2).

ルソーの出世作である『学問芸術論』はディジョンのアカデミーへ提出された懸賞論文。1749年に出されたアカデミーの課題は「学問と芸術の復興は人間の習俗を改善したか否か」というもので、ルソーの強烈な否定的回答は翌年七月に一等を与えられました。この『学問芸術論』は受賞と同年に刊行され、ルソーの文名を一躍高めています。ジュネーヴのバリロ刊と記した刊記は偽りで、ディドロがパリの印刷者ピソに上梓させたと伝えられます。上掲は広く初版本として通行するものですが、書誌的には第二版。タイトル頁のヴィニエットが異なり、本文の誤植箇所には若干の異同がある以外は折丁の数なども共通しており、時間的に初版とごく近いものと考えられます。

上掲は同時代の合綴本で、ポーランド国王スタニスラフ・レシチンスキによる論駁ならびにルソーの反論、それにシャルル・ボルドの批判といった三つの関連書をあわせて製本しています。これら三つもパリのピソの刊行かと推定されるもの。

#### A-11. ルソー《新エロイズ》初版

ROUSSEAU, Jean-Jacques. [Julie, ou la nouvelle Heloïse.] Lettres de deux amans, habitans d'une petite ville au pied des Alpes. Recueillies et publiées par J. J. Rousseau. A Amsterdam, chez Marc Michel Rey, 1761.

¥660,000

12mo, six volumes; pp. (16), 407, (1) publisher's advertisements; (4), 319, (1) advertisements; (4), 255, (1) advertisements; (4), 331, (1) blank; (4), 311, (1) advertisements; (4), 312; title printed in red and black, engraved vignette on title-page of each volume, engraved vignette to the last page of text in Vols. 1-5; the final gathering of vol. 1 in uncorrected state (p. 389 with the readings 'nécessaire', 'plus loi-' and 'pas assé', p. 398 'effarée'); occasional light thumbing and soiling, sporadic mild browning and foxing, bound in contemporary mottled calf, red morocco title label to the spines (missing in Vols. 3 and 4), corners and spine ends worn, joints partly split, front joint of the initial volume cracked but sound. McEachern 1B; Gagnebin 1B; Quérard VIII. 195; Dufour 87; Cioranescu 54803; Snelier 362; Tchemerzine-Scheler V. 537-8; Le Petit pp. 560-2.

ヨーロッパに夥しい涙の洪水を齎したルソーの書簡体小説。『新エロイズ』の名を以って今日知られますが、上掲本のように初版のハーフ・タイトルは「ジュリー、あるいは新エロイズ」、二色刷のタイトル頁に

は「アルプス山麓の小村に住む二人の恋人の書簡集」と記されています。

アムステルダムでのレーのもとで初版四千部が刊行にいたる、その主たる経緯は1925年に刊行されたダニエル・モルネの校訂版で明らかにされていますが、さらなる詳細についてはマケクランの書誌を参照。部数の半分はパリに送られ、その販売にあたったエティエンヌ＝ヴァンサン・ロバンはまた、マルゼルブの意向を受けた検閲版の出版も行っています。今日「ロバン版」と呼ばれるものがそれ。本書の爆発的人気は初版やロバン版、海賊版・偽版を含め、1761年の刊記をもつ版だけで十一種類におよぶ事実に向かえましょう。

初版の第一巻最後の折丁には誤植の有無によって二種の刷りが区別されますが、上掲は最初の形態。なおかつての書誌類は、第一巻に二葉からなる誤植訂正一覧を含むとしましたが、この誤植表はパリのデュシェーヌが印刷したものと考えられ、マケクランによればパリの国立図書館本にしか見られません。またグラヴロの銅版挿画十二点を含むものも現存しますが、これもデュシェーヌの上梓になり、レーの初版本と書誌的には無関係。

『新エロイズ』初版本は二種類が区別され、タイトル頁と本文最終頁の装飾にヴァリエントが存在します。ガニェバンならびにマケクランの分類でA種とされるもののタイトル頁には、第一・第六巻のみペトラルカの詩句（ソネット二百九十四番から）をあしらった銅版装飾が置かれ、第二巻から第五巻は簡素な活版の装飾模様。B種では第一巻・第六巻はA種と共通ですが、第二巻から第五巻については各巻異なる銅版のヴィニェットがタイトル頁に見られます。また第一巻から第五巻の本文最終頁にB種では各巻異なる銅版装飾が置かれていますが、A種では同じ箇所活版の装飾模様が見られます。

B種の本文末尾に見られるヴィニェットのうち、第一巻のそれは1737年、第二巻は1729年、第三巻は1728年の日付が入っており、いずれも製作年代が三十年以上遡るものであることがわかります。当時の印刷慣習からすれば、印刷の途中で簡素な活版装飾からより手間のかかる銅版装飾に変更されるとは考えにくく、むしろ最初に使用していた銅版装飾に何らかの不都合が生じたため活版装飾に代えられたと推測するのが自然でしょう。かつてデュフルならびに（モルネの校訂版からすでに四半世紀を閲しているにも関わらず）セヌリエがB種をもって初版としたのはその意味で当然と思われる。

現存する書簡から、著者ルソーと出版者レーとの間に校正刷が往復するのと同時に、『新エロイズ』に加えらるべき装飾が論点となっていることが確認されます。ルソーはレーが提案したヴィニェットを拒否し、現在A種に見られる装飾で決着したのは事実ですが、現存する二種の先後関係についてはマケクランも言及していません。

同時代の牛革装。稀少、B種はことに稀れ。

#### A-12. シエイエス《特権論・第三身分とは何か》ほか

SIÈYÈS, Emmanuel-Joseph. Essai sur les privilèges. Nouvelle édition. S.l., s.n., 1789.

[Bound with:]

Qu'est-ce que le Tiers-état? Troisième édition. S.l., s.n., 1789.

[Bound with:]

Vues sur les moyens d'exécution dont les représentans de la France pourront disposer en 1789. Seconde édition. S.l., s.n., 1789.

[Bound with:]

Observations sommaires sur les biens ecclésiastiques, du 10 août 1789. A Paris, chez Baudouin, 1789.

[Bound with:]

Préliminaire de la Constitution. Reconnaissance et exposition raisonnée des Droits de l'homme et du citoyen. Lu les 20 et 21 juillet 1789, au Comité de Constitution. A Paris, chez Baudouin, 1789.

¥330,000

8vo, five volumes bound in one, pp. (2), 54, (2) blank; (2), 180; viii, 168; (2), 34; 32; light thumbing and soiling to the last leaf, occasional faint waterstaining, but otherwise a very good clean copy, bound in contemporary half calf, spine ends and corners restored, joints partly cracked but sound; manuscript table of contents to the front fly-leaf; some manuscript corrections to the text of the third work. En français dans le texte 186; Quérard IX. 133-4; cf. INED 4185, 4187 & 4190.

フランス革命の法的根拠を呈示し、立憲議会による民主的政治への道を開拓したシエイエスのパンフレット五点の合綴本。エマニュエル＝ジョゼフ・シエイエス（シイエス）は1748年地中海に面したプロヴァンスの町フレジュの生まれ。第三身分、すなわち平民の出自から聖職者となり、三十二歳でシャルトルの司教代理、さらに高等教会裁判所判事などを歴任し、オルレアン議会で教会代表として出席しました。この間に政治・法律について研究を重ねたシエイエスは、財政窮乏に端を発する政情不安に乗じ1788年末に最初のパン

フレット『特権論』を世に問い、身分制特権を厳しく指弾しています。翌年一月にはその続編にあたる『第三身分とは何か』を刊行、平等な国民による民主的議会の制定を訴えました。フランス革命の流れを決定的にした歴史的名著であるとともに、シエイエスの名声を確立し初期の国民議会における指導者とせしめた著作でもあります。

『1789年にフランスの代表者たちが持つことになる実施手段についての見解』は1788年七月、政府が全国三部会の開催につき広く意見を募ったのに応じた論考。『特権論』・『第三身分とは何か』に先んじて執筆されていますが、その後政治情勢の急変に応じて刊行が後回しとなったもの。『教会財産に関する考察』は1789年八月四日、教会の十分の一税が無償廃止されたことに対する批判であり、この一件でシエイエスは大きく世評を損なったと伝えられます。最後の『人権宣言草案』はバスティユ攻略と同日に憲法制定委員に選ばれたシエイエスが、一週間後に提出した三十二項からなる人権宣言の草案とその解説を示したものの。

上掲本はシエイエスの著作のみ五点を集めた合綴本。装丁も同時代のものであり、革命当時の読者によって彼の著書がいかにか重要視されていたかを伺うことができます。ここに収録されている『特権論』は初版の直後、1789年初めに刊行された第二版。『第三身分とは何か』は本文に改訂増補が加えられた第三版で定本と見做されるもの。『見解』は初版と同年に刊行された第二版。『教会財産に関する考察』は初版、『人権宣言草案』は初版と同年の第二版。

シエイエスの著書は時節に乗じた単なるプロパガンダではなく、その理論は永年にわたる思索の結晶でした。法の下における平等、国民主権、立憲主義、代議制民主主義など近代の政治機構を構成する諸概念が具現化するにいたったのは、まさに彼の著書を通じてのことです。かつてルソーが展開した理想的な平等論、あるいは社会契約説にさらに磨きをかけ、現実の社会組織へ適用可能な理論を提起した点で、その功績は今日もなお重大なものといつてよいでしょう。

#### A-13. ジェイムズ・テイラー《通貨問題をめぐるパンフレット・コレクション》

TAYLOR, James. [A Collection of 27 pamphlets and broadsides mainly on the currency question, 1828-1861, as follows:]

1. To bankers and others interested in the circulating medium of England. This day is published, in 8vo, price 6s. A View of the monetary system of England, from the Conquest; with proposals for establishing a secure and equable credit currency. By James Taylor. [London, 1828]. *Broadside advertisement (413 x 333 mm.), printed on recto only, in three columns; folded. Cf. Goldsmiths 25595.*
2. A Letter to His Grace the Duke of Wellington, on the currency. By James Taylor. London, John Taylor, 1830. 8vo, pp. (2). 86, with 16-page publisher's advertisements at end; stitched as issued. *Kress C.2687; cf. Goldsmiths 26309 (second issue with the postscript [pp. 87-112]).*
3. The following are extracts from the Derbyshire Courier of July 17, 1841 [concerning Thomas Masters's affair and its aftermath]. Chesterfield, J. Roberts, [1841]. 8vo leaflet (246 x 197 mm.), printed on recto only, in two columns. *James Taylor is among the nine signed to protest the punishment given to Thomas Masters.*
4. Some more hints touching taxation. S.l., [1843]. 8vo, pp. 12; sewn as issued. *"Bakewell, 1843" at the end of text.*
5. John Bull's letter to Malachi Malagrowther, Esquire of North Britain, on the premier's currency projects. London, Aylott and Jones, 1845. 8vo, pp. 30, (2) blank; sewn as issued. *Goldsmiths 34263.*
6. The Silver-plated spade and French-polished mahogany wheelbarrow. S.l., [1845]. 8vo, pp. 4; folded as issued. *Text dated "Dec. 1, 1845" at end. Goldsmiths 34264.*
7. The Currency question. S.l., [1846]. 8vo, pp. 4; folded as issued. *"Extracted from the Pictorial Times of March 21, and the Agricultural Adviser of March 28, 1846." Goldsmiths 34712.*
8. Remarks on the letter of Mr. Gladstone, Sen. on the currency question, being a vindication of the market price system of cash payments. London, Effingham Wilson, 1847. 8vo, pp. 8; sewn as issued. *Text dated April 2nd, 1844 at end and signed "Iota". Goldsmiths 35205.*



9. A Correct monetary system essential to a free-trade system. London, Effingham Wilson, 1847. 8vo, pp. 32; *sewn as issued*. "Extract from some letters, which appeared in the "Sun" Newspaper in October and November, 1843, under the signature of 'Iota.'" Goldsmiths 35202.
10. What constitutes the "pound sterling;" or, remarks on Sir Robert Peel's speech in the debate of April 30, 1847. London, Effingham Wilson, 1847. 8vo, pp. 8; *sewn as issued*. Goldsmiths 35206.
11. The Essential error of "Peel's bill" pointed out and a prompt and efficient remedy suggested. S.l., [1847]. 8vo, pp. 4; *folded*. Text dated "Oct. 7, 1847" at end. Goldsmiths 35203.
12. The Scotch currency system and Sir Robert Peel. London, Effingham Wilson, 1848. 8vo, pp. 8; *sewn as issued*. Text dated "January 12th, 1848" at end. Goldsmiths 35774.
13. Is parliament or Sir Robert Peel responsible for "Peel's bill"?, being a reply to Sir Robert Peel's speech of the 3rd December 1847, as reported in the "Times Paper" the following day. By the author of "No trust no trade," etc. etc. London, Effingham Wilson, 1848. 12mo, pp. 24; *sewn as issued*. Goldsmiths 35772.
14. The Repeal of the act of 1819 and a real restoration of cash payments to the old system demanded by reason, justice, equity, and expediency. Bakewell, printed by John Goodwin, 1848. 8vo, pp. 28; *stitched as issued*. "The following facts and arguments are adduced by James Taylor of Bakewell ..." Goldsmiths 35773.
15. California surpassed. Instructions derived from the "Times Paper," for the discovery of a mine of wealth in England far richer than any that has yet been discovered in the golden regions of California. Third edition. Bakewell, printed by John Goodwin, 1849. 8vo, pp. 12; *sewn as issued*. "Bakewell, April 16, 1849" at the end of text; *preface to the third edition dated June 30, 1849*. Goldsmiths 36384.
16. Sir James Graham's remarks on landlords & currency. S.l., [1850]. 8vo, pp. 6, (2) blank; *sewn as issued*. Dated "March, 1850" at the end of text. Goldsmiths 36979.
17. Armageddon; or, thoughts on popery, Protestantism & Puseyism. By a layman. London, Taylor, Walton and Maberly, 1851. 8vo, pp. 55, (1) blank; *stitched as issued; some soiling to the title-leaf*.
18. A Reply to the speech of the Hon. G. H. Cavendish, at the recent North Derbyshire election. Bakewell, J. Goodwin, [1852]. 8vo, pp. 12; *sewn as issued*. "Bakewell, July 28, 1852" at the end of text.
19. The "Times" newspaper and the Bank of England. A letter to a member of parliament from one of his constituents. [London], J. Wertheimer, [1854]. 8vo, pp. 8; *sewn as issued*. Text dated May 16th, 1854.
20. Nottingham & Newhaven Turnpike Trust: Third District. Correspondence with the Home Office. Bakewell, J. Goodwin, [1854]. 8vo, pp. 14, (2) blank; *sewn as issued*. Includes three letters by James Taylor.
21. To the representatives in parliament for the counties of Nottingham and Derby. S.l., [1855]. 4to, single leaf. A letter by James Taylor, dated "Bakewell, April 2, 1855."
22. Ought money to be the servant of the people or their master? S.l., February 5th, 1857. 8vo, pp. 4; *folded as issued*. Text dated February 5th, 1857 at end.
23. The Bank Charter Act. S.l., [1857]. 8vo, pp. 8, *sewn as issued*. Text dated February 18, 1857 at end.
24. The Oaths Bill. Copy of a petition which it is intended to send by post this evening, for presentation to the House of Lords. Bakewell, June 30, 1858. 8vo leaflet (220 x 140 mm.), printed on recto only; *chipped and creased along the edges*. "The petition is lying at the Bank of Messrs. James Taylor and Son ..."

25. What is the true faith of a Christian? S.l., [1858]. 8vo, pp. 8, folded. Text dated December 1, 1858 at end.
26. The following questions relative to the abolition of church rates are submitted to the consideration of those, who, regardless of all party feelings, are anxious to know and to do that which is just and right. S.l., [1861]. 8vo leaflet (125 x 197 mm.), printed on recto only. Text dated "Bakewell, February 14, 1861" at end.
27. The Church rate question. A petition to parliament, of which the following is a copy is now lying at Mr. Goodwin's shop, for the signatures of those who may wish to sign it. S.l., [1861]. 8vo leaflet (197 x 125 mm.), printed on recto only, a clean tear to lower corner (marginal). Text dated "Bakewell, February 14, 1861" at end.

**Together 27 items: ¥440,000**

1788年イースト・レットフォードに生まれたジェイムズ・テイラーは、ジョン・クレアやキーツなどロマン派詩人の出版者としても有名なジョン・テイラーの弟。十三歳で姉夫婦が亜麻布取引を経営していたダービーシャーのバイクウェルに移り、1809年には共同経営者となります。その後、恐らくは紡績工場の賃金融通に端を発してか、テイラーは金融事業に手を染めました。義兄が1835年にこの世を去ると亜麻布商・金融の両方を手掛けましたが、1846年には二つを分離して正式に銀行を設立。数年後には同名の息子との共同経営とし、James Taylor & Son と名乗りました。1863年二月死去、バイクウェルのすべての商店はその葬儀の日、追悼のために閉じられたと伝えられます。

DNB (Vol. 19, p. 447) によるとテイラーが経済を研究する契機となったのは、1810年の地金報告書でした。その最初の著作は *No Trust, No Trade* (1826) と思われませんが、以後彼は強固な反地金主義者としてバイクウェルから多くの著述を世に送っています。その大半は経済、特に通貨問題を論じており、本コレクションはそのすべてを網羅したものではありませんが、パンフレットないし一枚ものという形態に加え、経済時論という内容も災いしてか、いずれも今日稀少。

上掲二十七点のうち数点は主要な書誌類に著録されておらず、著者名も明記されていませんが、いずれもバイクウェルで執筆された経済論であることから、ジェイムズ・テイラーの著と見做されて然るべきでしょう。

#### A-14. トレンズ《富の生産》初版

TORRENS, Robert. An Essay on the production of wealth; with an appendix, in which the principles of political economy are applied to the actual circumstances of this country. London, printed for Longman, Hurst, Rees, Orme, and Brown, 1821.

**¥440,000**

8vo, pp. xvi, 430; rebound in half leatherette antique on marbled boards, light foxing to the title and the last few leaves, occasional mild soiling and spotting, but a good sound copy. Kress C.795; Goldsmiths 23151; McCulloch p. 18.

海軍軍人のロバート・トレンズはアイルランドの出身。1811年アンホルト島をオランダ軍の攻撃から守った際には重傷を負いながらも功績をあげ、少佐に昇進。1819年には中佐となっています。その一方で1818年以来何度か下院選挙に立候補し、1832年選挙法改正の際には議員として賛成票を投じました。

1808年、重農主義を批判した *Economists Refuted* を皮切りに、トレンズは同時代の経済問題を論じた数多くの著書を発表しています。ポリティカル・エコノミー・クラブの創設会員だった彼は、同時代のリカードウから理論的な刺激を少なからず受ける一方でその価値論を批判するなど独自の立場を貫き、古典派経済学の重要な一翼を担った人物として再評価されています。

本書はトレンズの主著のひとつで、富・価値・価格の関係を論じたのち、工業・農業・商業などの諸産業における富の生産を考察しています。頁数にして約三分の二を占める商業論では、内国・外国貿易に加え、植民地貿易についても一章を割き、さらに紙幣や需給法則について論じています。